

第1回けせんぬま防災フェスタに参加・出展しました(2018/2/11)

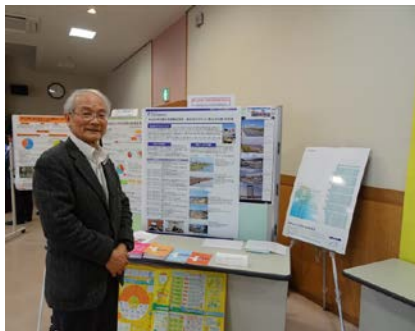
テーマ：市民参加、市民協働活動、防災学習、食と防災
場所：気仙沼市役所 ワン・テン庁舎 大ホール

2月11日、気仙沼市役所ワン・テン庁舎において、第1回けせんぬま防災フェスタが開催され、当研究所から気仙沼サテライト（気仙沼分室）がポスター展示に参加したほか、安倍祥助手（寄附研究部門）がパネルディスカッションの進行を担当しました。けせんぬま防災フェスタは、気仙沼市内のさまざまな団体の防災の取り組みを紹介したり、クイズ・体験等を通じて、子どもから大人まで防災対策について楽しく学べるイベントを目指し、第2次気仙沼市総合計画策定プロジェクト「これからの気仙沼を描く作戦会議！」防災チームのメンバーを中心とした市民らの実行委員会の手で企画されました。

第1回フェスタは「防災×食」をテーマに、調理方法を変えたアルファ米の試食や、空き缶と牛乳パックを使って炊飯する“サバメシ”体験、子どもも大人も参加できる防災クイズや、気仙沼市内の小学校・中学校・高等学校、社会福祉協議会のポスター活動紹介、消防自動車の展示、市役所危機管理部局の活動報告や備蓄・非常持出袋の展示も行われました。気仙沼サテライトからは、22回にわたり気仙沼市内で開催してきた「防災文化講演会」や、震災アーカイブ活動の取り組みについてポスターで紹介し、およそ40名の市民にご覧いただきました。

フェスタの後半は、学校や社会福祉協議会、消防機関からの取り組み発表や意見発表が行われ、参加者の防災に向けた取り組みをふり返りながら「伝える」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

小さなお子さんから、小中学生、一般、防災関係団体から行政機関まで、一堂に会する一日となり、それぞれに防災に対する理解や思いを深めました。



災害科学国際研究所気仙沼サテライトの展示



パネルディスカッションの様子

文責：安倍 祥（寄附研究部門）